

あさひさんち

朝日山地森林生態系保護地域

面積	計：48,229.57ha 庄内森林管理署：23,221.74ha 山形森林管理署：15,121.60ha 置賜森林管理署：9,886.23ha（今回調査のプロット所在署） ＜関東森林管理局：21,718.77ha＞
	朝日山地は、日本海側型東北（雪国）気候区に属する隆起山地であり、大朝日岳を主峰とする主稜線といくつかの支稜は非対称山稜を呈している。この地域の主要部分は、人為の介入がほとんどなく、 <u>原生的な自然状態が維持されていることに加え、低地から高山帯まで広範な植生帯が存在し、亜高山帯針葉樹林を欠き低木林が発達する豪雪地特有の植生が見られるなど、変化に富んだ種々の生態系が展開し、多様な動植物が生息・生育している。</u> これらの原生的な森林生態系を保存することにより、自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林施業・管理技術の発展、学術研究等に資することを目的として設定された。
前回調査の評価・課題等	保護林設置目的である原生的な森林生態系が維持されている。
モニタリングの実施間隔	10年

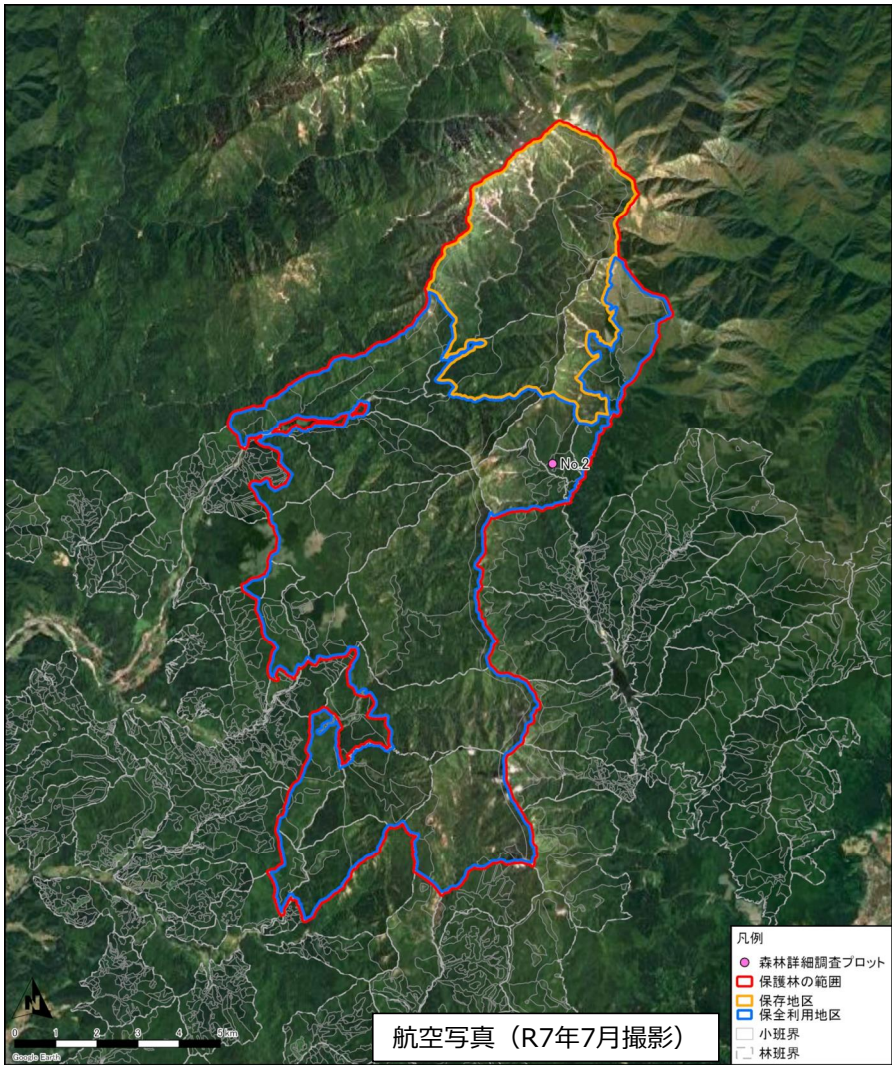
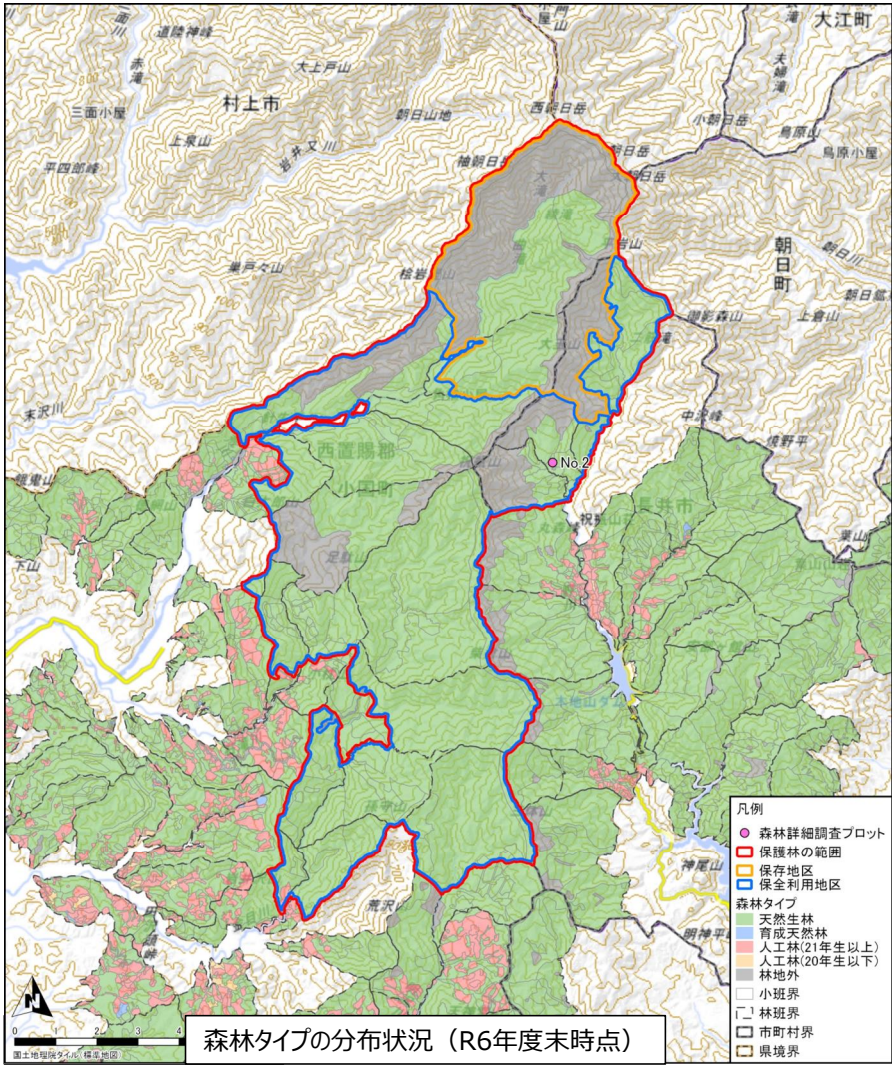
朝日山地森林生態系保護地域

実施した調査 資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(1箇所)

デザイン

日本海側型東北（雪国）気候区に属する隆起山地であり、大朝日岳を主峰とする主稜線といくつかの支稜は非対称山稜を呈している。この地域の主要部分は、人為の介入がほとんどなく、原生的な自然状態が維持されていることに加え、低地から高山帯まで広範な植生帯が存在し、亜高山帯針葉樹林を欠き低木林が発達する豪雪地特有の植生が見られる。

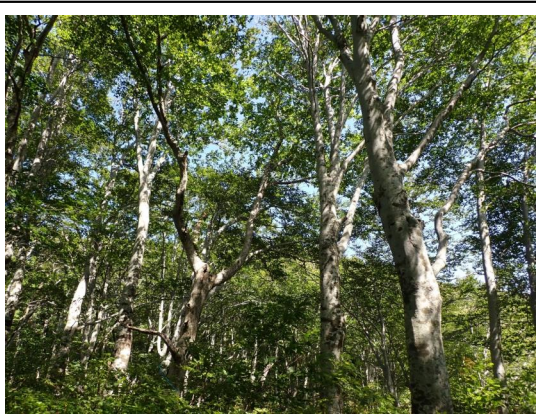
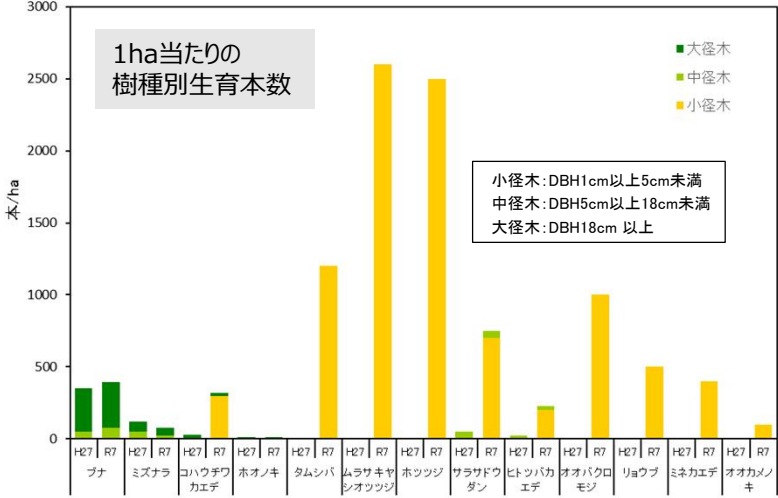
本保護林内及び周辺の森林タイプの分布に変化は確認されなかった。



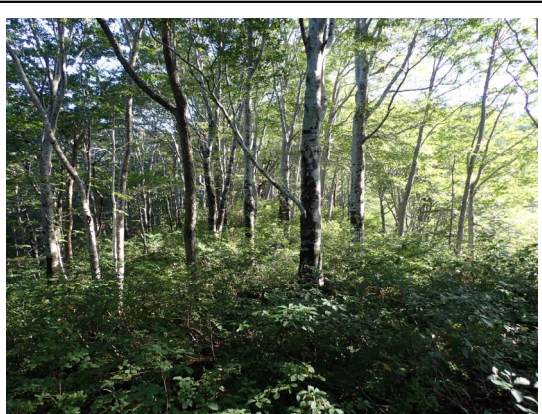
デザイン 森林詳細調査 【プロットNo.2】

樹種	生育本数(本/ha)		本数割合	
	H27	R7	H27	R7
ブナ	350	395	59.8%	3.9%
ミズナラ	120	75	20.5%	0.7%
コハウチワカエデ	30	320	5.1%	3.2%
ホオノキ	10	10	1.7%	0.1%
タムシバ		1200		11.9%
ムラサキヤシオツツジ		2600		25.8%
ホツツジ		2500		24.8%
サラサドウダン	50	750	8.5%	7.4%
ヒトツバカエデ	25	225	4.3%	2.2%
オオバクロモジ		1000		9.9%
リョウブ		500		5.0%
ミネカエデ		400		4.0%
オオカメノキ		100		1.0%
13種	585	10075	100.0%	100.0%

※緑セルは主要樹種を示す。



調査地の外観 (プロット2)



調査地の外観 (プロット2)

デザインに関する評価

基準	指標	結果
気候帯又は森林帯を代表する原生的な天然林を主体とした森林が維持されている	原生的な天然林等の構成状況	森林タイプの分布に大きな変化は確認されなかった。 ブナを主要樹種とした豪雪地特有の落葉広葉樹林である。主要樹種の緩やかな成長が見られた。大径木の割合が高く小径の後継樹は見られなかった。

- ・ブナの生育本数が前回調査から約1.1倍に増加した。
- ・ブナは大径木の占める割合が高く、小径木は確認されなかった。
- ・タムシバ等の小径木を多数確認 (調査手法の変更により 1 cm以上の小径木が計測対象となったため本数が大幅に増加した)。

価値 森林詳細調査 下層植生調査結果

【プロットNo.2】

年度	H27	R7	
調査区	プロット全体	N区	S区
低木層の植被率(%)	50	70	90
低木層の優占種	ホツツジ	ムラサキヤシオツツジ	ホツツジ
草本層の植被率(%)	80	60	30
草本層の優占種	チシマザサ	チシマザサ	ユキツバキ

出現種数	33	14	12	環境省RL	山形県RL
アオダモ	○		○		
アケシバ	○				
アズキナシ	○				
ウツミズザクラ			○		
オオイウチワ	○	○	○		
オオカメノキ	○				
オオバクロモジ	○	○	○		
オオバスノキ	○	○			
コシアブラ	○				
コハウチワカエデ	○				
サラサドウダン	○				
シシガシラ	○				
タムシバ	○	○			
チシマザサ	○	○	○		
ツルアリドオシ	○				
ツルシキミ	○	○	○		
ナナカマド	○				
ハイイヌツゲ	○	○	○		
ハウチワカエデ	○				
ハナヒリノキ	○				
ヒトツバカエデ	○	○			
ヒメモチ	○				
ブナ	○	○			
ホツツジ	○	○	○		
マルバマンサク	○	○			
ミズナラ	○		○		
ミネカエデ	○	○	○		
ミヤマガマズミ	○				
ムラサキヤシオツツジ	○	○	○		
ヤブコウジ	○				
ヤマウルシ	○				
ヤマモミジ	○				
ユキツバキ	○	○	○		
リュウブ	○				

- ・下層植生の生育状況に目立った変化は見られなかった。
- ・ブナの稚樹や実生はわずかに確認されたのみであった（H27、H30は豊作、R4は並作）。
- ・絶滅危惧種等の重要種は確認されなかった。



プロット2 (N区)



プロット2 (S区)

病虫・鳥獣・気象害の発生状況

項目	結果
病虫害	記録なし
鳥獣害	到達経路上でノブキにニホンジカのものと考えられる食痕を確認
気象害	記録なし

価値に関する評価

基準	指標	結果
森林生態系からなる自然環境の維持、野生生物の保護、遺伝資源の保護が図られている	野生生物の生育・生息状況、森林の被害状況	下層植生の生育状況に目立った変化は確認されなかった
		到達経路上でオオハンゴンソウ（特定外来生物）が確認された
		森林被害は確認されなかった

利活用

- 5件の学術論文等が確認された。
 - ・荒れた登山道表面の天然素材被覆に期待される効果とは？（菊池、2017）
 - ・2019年朝日連峰植物調査報告（沢、2019）
 - ・令和5年度自然生態系保全モニタリング調査報告書（山形県環境科学研究センター、2024） など

利活用に関する評価

基準	指標	結果
森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に利用されている	学術研究での利用	登山道保全や自然生態系保全モニタリングなど、学術研究等への利用が5件確認された。

管理体制

- 置賜森林管理署：保護林に至る林道点検及び林野巡視を行っている。
- 朝日庄内森林生態系保全センター：職員による林野巡視に加えて、ボランティアの朝日山地森林生態系保護地域巡視員（令和7年度は51名登録）により、外来種の侵入状況の把握や森林病虫獣害の確認等を行っている。
- 山形県置賜総合支庁：巡視等は実施していない。

管理体制に関する評価

基準	指標	結果
適切な管理体制が整備されている	保護林における事業・取組実績、巡視状況等	必要な管理体制が取られている。

総括表【プロット2】

調査年度		H27	R7
調査日		2015/10/18	2025/9/26
プロット情報	斜面方位、傾斜(平均)	S40° W、10°	
	局所地形	平坦尾根	
林分状況	段階	成熟	成熟
	【高木層】主要構成樹種	ブナ	ブナ
	【高木層】植被率	80%	80%
	【高木層】樹高	16～25m	16～26m
	【高木層】DBH	30～70cm	30～70cm
	【草本層】優占種	チシマザサ	チシマザサ、ユキツバキ
	【草本層】植被率	80%	30～60%
林分等の状況		高木層にブナ、ミズナラ、ホオノキ、垂高木層にブナ、ミズナラ、コハウチワカエデ、低木層にホツツジ、オオバクロモジ、タムシバ、草本層にチマキザサ、ホツツジ、オオイワウチワが生育。良好な状態が保たれている。	ブナが優占する成熟した天然林であり、低木層にホツツジやムラサキヤシオツツジなどが密生する。ブナの胸高断面は微増し、緩やかに成長していることが確認された。林相に大きな変化はなく、おおむね健全な状況が確認された。
林況写真			

現地調査結果総括・考察【プロット2】

- ・胸高断面の約8割をブナが占めており、胸高断面は前回調査よりも微増しており、順調な生育が確認された。
- ・ブナの胸高直径階別の本数分布では15～45cmの階層が多く、60cm以上の個体も確認された。今後、老齢林分へと推移するものと考えられる。一方で、10cm未満の個体は確認されなかった。
- ・調査プロットは尾根上に位置しており、乾燥した立地に生育するツツジ類が密生することも、本プロットの立地環境を示している。
- ・草本層ではチシマザサが優占するが、現時点では樹木の発生・生育を妨げるほど密生はしていない。
- ・ブナについては前回調査以降にH27、H30は豊作、R4は並作であったが、胸高直径1cm未満の稚樹や実生は少なく、長期的な更新の観点からは今後の稚樹の生育状況にも留意が必要である。
- ・森林タイプの分布状況の変化や病虫害・鳥獣害・気象害は特に確認されず、本保護林の原始的な森林生態系は全体として維持されていると示唆された。
- ・到達経路上でニホンジカのもと思われる食痕、及び特定外来生物のオオハンゴンソウが確認されたため、今後の注視が必要である。
- ・今後も引き続き継続的なモニタリングを実施し森林の状況に留意していくことが望ましい。

全体まとめ

- ・林相に大きな変化はなく、安定して維持されていることが確認された。
- ・到達経路上でノブキにニホンジカのものと考えられる食痕が確認された。
- ・課題については特段確認されなかった。

評価を踏まえた今後の対応等

項目	結果・対応等
今回の評価を踏まえた 今後の対応について	・定期的な巡視を継続 ・10年後にモニタリングを実施
保護・管理及び利用に関する事項 (保護林管理方針書)	保存地区については、原則として人手を加えずに自然の推移に委ねるものとする。保全利用地区については、木材生産を目的とする森林施業は行わないものとする。 ※現行どおりとする。